

平成 2 1 年度 学校評価結果

領域	自 己 評 価 の 結 果 (達成状況，結果の分析)	改 善 方 策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学 校 関 係 者 評 価 の 結 果	学 校 評 価 の ま と め															
学 校 経 営	1 ホームページでの発信状況 「漢字学習の取組」の項目が充実した。 2 保護者，自治会回覧文書等による広報発信状況 文書配布回数が増加した。 3 保護者対象メール配信システムの導入 インフルエンザ，台風等にかかる情報提供に活用している。	1 ホームページについて 発信内容の充実を図る。 2 保護者，自治会回覧文書等について 文書の発送範囲，回覧方法の改善を図る。 3 保護者対象メール配信システムについて 情報配信について効果的な運用を図る。	・ホームページの充実や，自治会回覧文書の発行など，広報手段の拡充が見られた。地域や家庭とのつながりに尽力していることは高く評価できる。 ・メール配信システムを導入したことにより，各家庭へ向けて，より多くの情報を発信できるようになり，保護者との連携がスムーズになった。	・情報発信内容の充実を図るとともに，適切な時期に広報できるようさらに計画的に活動を進める。															
学 習 指 導	漢字検定合格者数（3年生） <table><tr><th>級</th><th>昨年度</th><th>今年度 (2学期末)</th></tr><tr><td>2級</td><td>0名</td><td>2名</td></tr><tr><td>準2級</td><td>15名</td><td>11名</td></tr><tr><td>3級</td><td>57名</td><td>76名</td></tr><tr><td>達成率</td><td>55.4%</td><td>52.7%</td></tr></table> ・達成率については，3学期に予定されている，今年度最終回の漢字検定での予想合格者数を加えると，ほぼ昨年度と同程度と考えられる。 ・今年度は漢字への関心を高めるために，漢字文化講演会を実施し，生徒の漢字学習に対する意欲と興味を喚起することができた。	級	昨年度	今年度 (2学期末)	2級	0名	2名	準2級	15名	11名	3級	57名	76名	達成率	55.4%	52.7%	・本校の漢字力アップに関する取組は，今年で3年目となる。目標級（3級）以上への合格達成率を高めるためには，年6回の対策テストや模擬試験に取り組む意欲の向上を図るとともに，国語以外の各教科においても，漢字力アップを意識した授業を更に充実していく必要があると考えられる。 ・準2級以上の取得者には，級に応じて2単位までの単位取得を認定しているので，この制度も生徒の漢字学習意欲喚起のために，今後も広く周知していく必要がある。	・漢字検定の高い合格率は大いに評価できる。国語を始めとした，各教科における指導の成果と捉えることができる。 ・家庭学習については，生徒対象アンケートの結果を見ると，さらに充実させる必要がある。 ・生徒の学力や進路にあったカリキュラムを考える必要がある。	・漢字学習に対する生徒の意欲向上を目指して，講演会等を企画し，級に応じた単位認定制度の周知を図る。 ・学力向上へ向けて，学校での授業と家庭学習の連携を図るための最善の方策を検討する。 ・本校生徒の実態に即した，特色ある教育課程を検討する。
級	昨年度	今年度 (2学期末)																	
2級	0名	2名																	
準2級	15名	11名																	
3級	57名	76名																	
達成率	55.4%	52.7%																	
生 徒 指 導	遅刻・欠席数合計（2学期末） <table><tr><th></th><th>昨年度</th><th>今年度</th></tr><tr><td>遅刻</td><td>2017</td><td>1411</td></tr><tr><td>欠席</td><td>3009</td><td>1843</td></tr></table> 今年度1クラス増にもかかわらず，いずれも大きく減少しており，本校の「遅刻指導」による効果と評価できる。		昨年度	今年度	遅刻	2017	1411	欠席	3009	1843	・教員の指導に従う態勢は整っているが，生徒が自ら進んで自己の向上を目指し行動できるようになれば，さらに基本的生活習慣の確立が果たせるものと思う。次年度も，全校職員で登校指導を始めとする指導に当たり，生徒の意識づけに努めたい。また，例年のことだが2年生の欠席・遅刻が1，3年に比べて多いので，いわゆる「中だるみ」を抑えていくことも課題である。	・学力向上を支えるためには適切な生徒指導が必要であるが，本校ではきめ細かく行われている。 ・生徒に存在感を持たせ，自信や興味を大切にし，一人一人の個性を伸ばすことが重要である。	・現在の生徒指導体制を維持しながら，学力との結び付けを意識した指導を行う。 ・生徒が自己の向上を目指して行動できるよう，それぞれの長所を伸ばす指導を進める。						
	昨年度	今年度																	
遅刻	2017	1411																	
欠席	3009	1843																	

領域	自 己 評 価 の 結 果 (達成状況，結果の分析)	改 善 方 策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学 校 関 係 者 評 価 の 結 果	学 校 評 価 の ま と め																												
健 康 ・ 安 全 教 育	1 感染症 <table><tr><td></td><td>昨年度</td><td>今年度</td></tr><tr><td>インフルエンザ</td><td>1 0 2</td><td>1 3 8</td></tr><tr><td>感染性胃腸炎</td><td>1 4</td><td>3</td></tr><tr><td>麻疹</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>百日咳</td><td>2</td><td>0</td></tr><tr><td>流行性角結膜炎</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>A型溶連菌感染症</td><td>0</td><td>2</td></tr><tr><td>流行性耳下腺炎</td><td>0</td><td>2</td></tr><tr><td>水痘</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td>合 計</td><td>1 2 0</td><td>1 4 6</td></tr></table> 新型インフルエンザの世界的流行により，インフルエンザ感染者は増加したが感染者の拡大を防止する効果は十分上がったと言える。 2 学校事故（スポーツ振興センター給付金手続き件数） 昨年度：3 5 件 今年度：1 9 件 この中で学校施設設備に起因する事故は，テニス部のフェンスの針金によるけが人1名である。		昨年度	今年度	インフルエンザ	1 0 2	1 3 8	感染性胃腸炎	1 4	3	麻疹	1	0	百日咳	2	0	流行性角結膜炎	1	0	A型溶連菌感染症	0	2	流行性耳下腺炎	0	2	水痘	0	1	合 計	1 2 0	1 4 6	1 今後も様々な感染症に対し，個々に対応した 予防策を徹底する。 <
		昨年度	今年度																													
	インフルエンザ	1 0 2	1 3 8																													
	感染性胃腸炎	1 4	3																													
	麻疹	1	0																													
	百日咳	2	0																													
	流行性角結膜炎	1	0																													
	A型溶連菌感染症	0	2																													
	流行性耳下腺炎	0	2																													
	水痘	0	1																													
合 計	1 2 0	1 4 6																														